乳がんサバイバーの声
～乳がんサバイバー　インタビュー企画～

乳がんサバイバーが
輝ける社会に

pinkribbon FUKUSHIMA

Interviewer
郡山市医師会
吉田治奈さん

Interviewee
Fingerfood artist
熊田りさん

乳がんが見つかった きっかけは？

私子供が2人いるんですけど、3人目って考えた時に乳がん検診を受けようと思ったんです。2人、母乳で育てたんですけど、そうすると乳がん検診を受けるタイミングってわりとと難しくって。30歳頃に検診を受けたら石灰化で精密検査になりなした。その後定期的に病院で検査を受けて、2年過ぎたあたりに乳がんの診断になりました。

どのような治療をうけましたか？

私は左側に乳がんができてリンパ節の転移がありましたので、手術は全切除、腋窩郭清の手術を受けました。上の外側だったので、全切除でも乳頭を残してもらいました。その後は抗癌剤治療を8クール受けて、内服と注射のホルモン療法を受けて、今も継続しています。放射線治療は受けていません。
初回手術から3年後に、乳房再建手術を受けました。

治療中に悩まれたこと、それをどう乗り越えましたか？

悩んだり、不安だったり、心が弱っていたのは手術する前までで、手術後は「自分の体から悪いものが取れた」っていう安心感がありました。その後の抗癌剤は、手術前に担当の先生から抗癌剤が必要かもって言われてたので、心構えは出来ていて、即答でやります!って答えました。抗癌剤治療については、皆さん多分不安になる方が多いとは思うんですけど、私は人生で1回くらいは抗癌剤を経験してもいいんじゃないかという前向きな気持ちもあって、そこまで不安はありませんでした。脱毛に対しても、自分の髪の毛がない姿なんで、見る機会は人生でないので、いい機会かなって全部プラスにとらえられました。

中心静脈ポートを入れたんですけど、傷の治りが悪くて、抗癌剤治療を始めたら、創が化膿して緊急入院をしたんです。中心静脈ポートを一度摘出てもらって、もう一回手術をしてもらいました。2回目からは先生にお薬を調整してもらいました。抗癌剤治療中は、回数をこなしていくと、顔や体がむくんできて、治療をしていることを知らない人に「太ったんじゃないの」って言われるのがつらかったです。悪気のない言葉だけど、それで傷ついてしまったことはありました。

乳房再建を楽しみに治療をしていました。私が再建をしたいなっていうタイミングで、シリコンが原因のリンパ腫がちょうどニュースになり、2年くらいたったころに行いました。再建術をうけて、バランスが取りやすくなったり、乳房ができたことで、姿勢が良くなって、洋服を着ても楽しいし、自分自身の自信を取り戻せたという気持ちになりました。

治療中、お仕事は続けていましたか？

治療中、家にいると、余計な事を考えてしまうので、仕事にどうしても行きたいという気持ちがありました。金曜日に抗癌剤治療を受けて、土曜日に注射(持続型G-CSF製剤)を打ってもらって、日曜日は休んで、月曜日には仕事に行っていました。子育てをして、仕事をしてっていうサイクルを崩さずに過ごしていたので、体調不良っていうのは、あまりなく過ごせました。

営業で現場に行って、掛け回っているようなお仕事をしていました。でも病気がきっかけでやりたいことを後回しにはしちゃいけないって思い、副業でお料理の仕事を始めました。

好きなことをする時間をもっと増やしたいなって思って、昨年退職しまして、お料理のお仕事をメインで、やっています。

今後の夢、目標は？

お料理の仕事を始めて、いろんな方とのご縁をいただきました。自分自身も学びを得られるような活動していきたいです。お料理を通して、自分が経験した病気の話を伝えていきたいです。

病気になってから、日常の幸せを倍ぐらいに感じるようになっていて、好きなことを好きな時にできる幸せは、当たり前ではなくて、特別なことなんだと感じます。

お料理に出会ったのも、仕事にしようと思ったきっかけも、病気だったので、悪いことだけではないなっていう思いで、今後もっと楽しみたいです。

乳がんであることを公表してインタビューを受けていただけた理由は？

自分のように涙を流して、つらい気持ちになる人を減らしたいと思いました。自分も不安ですが、自分が今ここで元気にいるっていうことが、メッセージになるのかなと。

自分自身も、不安で病気のことをインターネット調べましたが、ネガティブな情報が多くて、さらに不安になることがありました。でも実際治療してみたら、意外に大丈夫だった話を伝えたら、これから治療される方の不安を軽くできるかなと思い、できるだけ発信して行きたいなと思っています。

乳がん検診について思うこと

自分のことを後回しにしてしまう年代だと思います。日常の生活も大事ですが、体のメンテナンスとしての検診は後回しにしないで、定期的に行かなきゃいけないなと思います。

検診って、がんだったらどうしようって、結果を受け取る瞬間が怖いと思います。
マンモグラフィはそれほど痛みもないですし、乳がんは早期発見で治る病気になってきてると思うので、気軽に検診に行ってほしいと思います。
自分のように涙を流す人も減らしたいなって思います。

現在治療を受けている方、そのご家族にむけてメッセーはありますか？

患者さんのご家族は、病気だからって、なんて声かけようとか、悩まれると思います。私自身は普段の生活と変わらないリズムで過ごせて、家事も仕事もいつも通りで、そのいつも通りの対応がすごくありがたかったです。
ご家族には、そんなふうに接していただけたらいいのかなって思います。

医療従事者にメッセージをお願いします

病院のスタッフの皆さんにすごく支えられて治療ができたので、感謝しかないです。
治療中は普段は気にならないような、ちょっとした一言に敏感になってしまいした。
ちょっとした言葉がすごく響くってことは、伝えたいです。

Interview
動画はこちら

pinkribbon FUKUSHIMA 今回は第1回目のサバイバーインタビュー

ということで、熊田りささんにお越しいただきました。ありがとうございました。

今後もたくさんの方とつながっていければいいなと思います。

熊田 梨沙（ くまだ　りさ ）

日本フィンガーフード協会　上級認定講師
モクテルマイスター® 協会　モクテルマイスター　アドバンス認定校
私は32歳で若年性乳癌を患い、子育てや家事、仕事を続けながら闘病を経験。現在自分らしくお料理を表現し食事を楽しめる、クッキングサロンCharlotte（シャーロット）を経営。

[実績]
季節やイベントをテーマにレッスン開催 /GreenHilPark
女子会プランプロデュース /GreenHilPark イベントプロデュース
/グランシア　イベント　フィンガーフード監修 /musical&fingerfood
Xmas party（東京）　モクテル担当参加
/ハロウィンパーティー（岩手）モクテル担当参加

©LISA.KU.MA